

# Nagasaki

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00053531">https://doi.org/10.24517/00053531</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 42. 長崎県 追補

中西弘樹 (〒 851-2130 長崎県西彼杵郡長与町 2 丁目 29-4 亜熱帯植物所 anettai@ngs1.cncm.ne.jp)

### (A) 植物誌

『長崎県植物誌』(外山1980)の追補の記録が「長崎県植物誌ノート」として中西によって『長崎県生物学会誌』32号(1987)から掲載されており、70号(2012)までに37回、300種類以上が県新産植物として記録されている。今後新しい植物誌の出版が期待されている。

地域フローラとしては「長崎県生物学会」によって2001年に『多良岳の生物』が出版されたのにつき、2006年に『雲仙岳の生物』(長崎新聞社発行)が出版され、それぞれ種子植物やシダ植物、コケ植物などのフローラについての記述がある。諫早市森山町にある唐比湿地については総合調査が行われ、2003年に『唐比湿地の自然調査報告書』(森山町刊)が出版されている。その他、中西によって本誌『植物地理、分類研究』にトビカズラ(50巻, 2002年)、ハクチョウゲ(52巻, 2004年)、サキシマフヨウ(54巻, 2006)、トゲウミヒルモ(56巻, 2008年)、グンバイヒルガオ(58巻, 2011年)についての論文があるし、『植生学会誌』にキノクニスゲ(28巻, 2011年)、『沙草研究』にツシマスゲ(16号, 2011年)の分布と生態についての記載がある。また、中西によって無人島を中心とした島嶼植物の分布と生態について『植生学会誌』(17巻, 2010)や『長崎大学教育学部紀要-自然科学』(79号, 2011年)、『長崎県学会誌』にいくつかの無人島のフローラについて記録がある。帰化植物については中西ほか(2006)によって『長崎大学総合環境研究(8巻)』に概要と目録がまとめられている。

### (B) 研究機関

「佐世保市亜熱帯動植物園、通称「石岳動植物園」は、2011年に「西海国立公園九十九島動植物園」と名称が変更された。「長崎県亜熱帯動植物園」と共に、最近では絶滅危惧種の増殖を行っている。

### (C) 標本

長崎大学環境科学部にある外山三郎コレクション約8000点の標本は、校舎改築のため保管場所がなくなり、京都大学理学部の標本庫に寄贈された。その中には外山三郎氏自身が採集した昭和初期から昭和20年代までの標本や、全国各地の研究者と交換した標本、教え子たちの採集した昭和30年代の標本などからなる。中には樺太や積丹島などで採集された標本も含まれている。

### (D) レッドデータブック

これまで発刊されていた県および長崎市、佐世保

市のレッドデータブックはそれぞれ改訂されており、長崎県は2012年3月に『長崎県レッドデータブック2011 ながさきの希少な野生動植物普及版』(図, 長崎新聞社刊)として市販されている。長崎市は2012年に、佐世保市は2011年に改訂されたものがそれぞれのホームページで公表されている。

### (E) 植物群落

「長崎県生物学会」によって2006年に『雲仙岳の生物』が出版され、植生についての記述がある。大村湾沿岸の海岸植生について中西ほか(2009)が『長崎大学教育学部紀要-自然科学』にまとめている。その他、生物学会誌には中西によるいくつかの島の植生についての記載がある。



図 長崎県レッドデータブック2011 ながさきの希少な野生動植物普及版